

中経論壇

経営支援NPOクラブ

川上 博史



まもなく56年ぶりに、東京オリンピック・パラリンピックが開催され、日本国民を熱狂の渦に巻き込む、世紀の大イベントが繰り広げられようとしている。誰しもが願うことは、日本人アスリートが各競技で活躍し、メダルを、できれば金メダルを獲得するシーンを、自分の目で確認したいということだろう。

毎日、厳しい練習を積み重ねてきたアスリートにとって「おはあちゃん、誕生日おめでとう。翔太、50歳泳げるようになった。」

「東京」機に新たな習慣に

「おはあちゃん、誕生日おめでとう。翔太、50歳泳げるようになった。」

贈ろう「バースデーメダル」

どう。いつまでも元気な「バースデーメダル」の募集キャンペーンを始めることを考えている。誕生日にケーキだけでなく、オリジナルのメダルを贈る新たな習慣を広めるのである。

これにより、一人一人のモチベーションや生きがい感を高め、平和で幸せな文化国家をつくることに寄与できるのではないかと考え、このほど「一般社団法人バースデーメダル普及協会」を設立した。この活動の趣旨をよく理解してもらい、活動の輪が日本全国、やがては世界に広がることを夢見て、当面、「あったらいいな。こんなバースデーメダル」の募集キャンペーンを始めることを考えている。誕生日の祝い方は、百人百様のスタイルがあっても不思議でない。メダルそのものも既成概念から離れて、材質、形、大きさ、デザインなど、奇抜で斬新なアイデアが集まればと期待している。例えば、草花や地域特産品、果物・野菜、端切れで創るバースデーメダルがあっても面白い。また、オリジナルのメダルを生懸命手作りするシーンや、1年間の頑張った姿を讀えるメッセージを動画などで贈ったら、感動を呼ぶかもしれない。

東京オリパラ開催を契機にスタートする、このバースデーメダルの普及という小さなムーブメントが、難病や災害などで苦しんでいる方々に勇気を与え、希望の灯をともしきっかけになれば、この上ない喜びである。